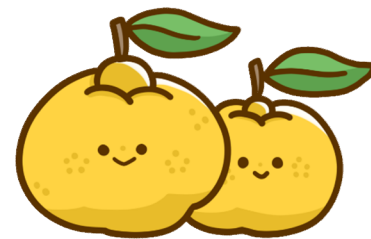




～渡良瀬遊水地～ 自然紹介



2025.12.22

冬

のはじまり。遊水地では続々と渡り鳥が飛来し、野鳥観察には最適な時期を迎えています。今回は、【嘴】に注目してみましょう。好む餌によって形状が異なるばかりか、繁殖や社会的な関係にも影響を与えています。観察に来た際には、どのように嘴を利用しているか静かに観察してみましょう。ぜひ風のない日は遊水地へお越しください。

水辺で 見られる鳥

まっすぐ長い嘴は、滑りやすい魚をしっかり掴み、噛まずに丸のみする。食いちぎる力はいらないため、肉に食い込む先端のカーブも不要。求愛給餌で相手に魚をあげるときは、嘴と平行にがっつりと咥え、なおかつ向きは相手が食べやすいよう魚の頭側を向けて渡す。



カワセミ

コウノトリ



何もかもがその大きさが特徴。田園地帯に生息する最大の鳥は嘴も特大サイズ!! ナマズを捕食する姿は迫力満点。コウノトリは鳴かない代わりに嘴の大きさを生かし、大きな音で嘴をカチならす「クラッタリング」はキツツキ類のドラミング同様、さえずりに相当する役割を持つ。

ハシビロガモ



泳ぎながら頭を下げ、嘴を水面と平行につけて採食する。上下嘴の縁に櫛の歯のような突起が細かく並んでいて、藻類などの植物性プランクトンのほかに、動物性プランクトンなどをこしとって食べる。その他に小魚、甲殻類もよく食べる。

大きい嘴は、鋭く鉤型に曲がっていて、獲物を捕らえて切り裂くために使われる。強力な顎の力と相まって、捕獲した獲物の肉を引きちぎるのに適している。猛禽類の特徴。

ミサゴ



ソリハシセイタカシギ



上に沿った嘴をもつ鳥。足が見えないぐらいの水深でも嘴を大きく左右に振りながら歩き、甲殻類や軟体動物などの幼生、昆虫類の幼生を捕食する。

樹林・ヨシ原で見られる鳥

シメやアトリなどが持つ太くて短い嘴は、草木の種子などを食べるのに適している。特にシメは、主にエノキやカエデ木の種子などを食べており、嘴で挟む力は、なんと人の握力と同じくらいで、30kgにもなるそう。

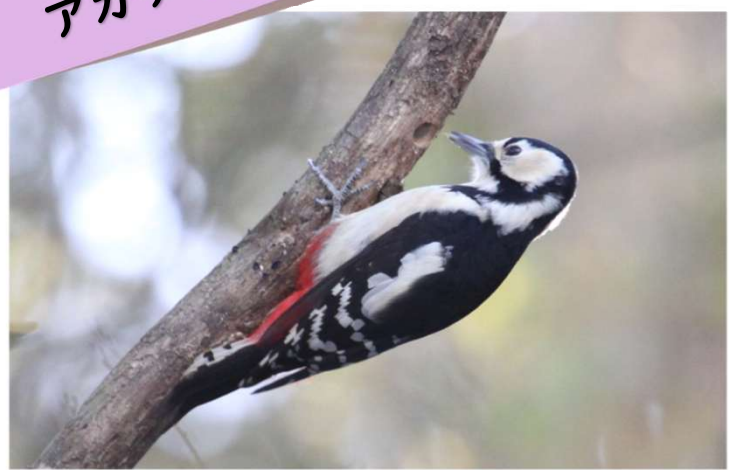
シメ



アトリ



アカゲラ



アカゲラやコゲラなどが持つ丈夫でとがった嘴は、木の幹に穴を空けたり、樹皮の隙間から昆虫を捕らえるのに適している。硬い生木をもうがった嘴は、大工道具のノミの役割をもつ。さえずりの代わりに行うドラミングでも活躍する。
ちなみに、アカゲラの下は5cmほどもあり、鼻の穴あたりから始まって頭骨をぐるっと回って後頭部を通り、口から出ている。この舌の構造がドラミングした際、脳を衝撃から守っているそう。

“小さな猛禽”の異名のとおり、鉤型の嘴と、そこに大きな力を与える筋肉量の多さが頭の大きさに表れている。昆虫、小鳥、両生類、爬虫類、小型哺乳類と自分とほぼ同じ大きさの獲物を狩る。タカ類と比べると足はそれほど発達していないので、嘴が肉食としての重要なアイテムとなっているのだろう。この時期、「モズのはやにえ（速贅）」を見かけることも！冬の保存栄養食という目的だけではなく、はやにえを食べた量に応じてさえずりが上手になり、繁殖期にメスからモテるといふ。



モズ

シジュウカラ



ヤマガラは、エゴノキの果実の硬い殻を突き割ったり、それを貯食用に樹皮のすき真へ埋め込んだりする動作など、巧みな技を持つ嘴。

ヤマガラ



シジュウカラやウグイス、オオヨシキリなどは、細くて小さい嘴。雑食で、昆虫類やクモ類など、小さな虫たち食べるのに適している。

TOPICK

今回の野鳥観察会は
2月12日(木)

12月11日(木)開催の野鳥観察会では参加者30名ほどが参加し、野鳥は合計52種類確認することができました！幸運なことにカラフルな羽の色が素晴らしいオシドリ♂がまじかで見られました！



【樹林・ヨシ原・草地】

スズメ
カワラヒワ
シジュウカラ
エナガ
メジロ
ウグイス
ホオジロ

【湖沼】

カルガモ
マガモ
ヒドリガモ
オナガガモ
コガモ
キンクロハジロ

アオジ
オオジュリン
ヒヨドリ
ムクドリ
コゲラ
ハシブトガラス
ハシボソガラス
キジバト

ホシハジロ
ミコアイサ
カワアイサ
カンムリカイツブリ
ハジロカイツブリ
カイツブリ
カワウ

シメ
ジョウビタキ
ベニマシコ
ツグミ
シロハラ
カケス
カオジロガビチョウ

計 22種類

セグロカモメ
ユリカモメ
メジロガモ
オシドリ♂
ホオジロガモ
オオハクチョウ

計 19種類

【水辺】

ハクセキレイ
セグロセキレイ
カワセミ
タヒバリ
アオサギ
コサギ
ダイサギ
オオバン

計 8種類

【上空】

トビ
ノスリ
ミサゴ

計 3種類

合計 52種類